

筑波学院大学は、日本国際学園大学に生まれ変わりました



2024年4月、茨城県、宮城県で待ち望まれた「国際・語学系大学」ついに開学!

国際教養、英語に加え、未来と繋がる公務員・ビジネス・AI・情報・コンテンツデザインの学び

## 日本国際学園大学4年間の学び JIU モデル

詳細はこちらから



本学では、国際性・語学力を高めながら、就職を見据えた多彩な実践教育を行います。その教育カリキュラム体系を本学では「JIU モデル」といい、目指す職種ごとにモデル別のカリキュラムに沿って学びます。

※「JIU」とは、「日本国際学園大学/JAPAN INTERNATIONAL UNIVERSITY」の略称です。



つくばキャンパス  
TSUKUBA campus

- 国際教養 (グローバルキャリア、大学院進学)モデル
- 英語コミュニケーションモデル
- 現代ビジネス (企業総合職、地域づくり、経営者、起業家)モデル
- 公務員 (行政職、警察官、公的サービス)モデル
- AI・情報 (DX、ウェブデザイナー、プログラマー、データアナリスト)モデル
- コンテンツデザイン (グラフィック、イラスト、動画、アニメーション)モデル
- 日本文化・ビジネス (外国人学生・留学生対象)モデル



仙台キャンパス  
SENDAI campus

- 国際教養 (グローバルキャリア、大学院進学)モデル
- 英語コミュニケーションモデル
- 現代ビジネス (企業総合職、地域づくり、経営者、起業家)モデル
- 国際エアライン (CA、グランドスタッフ)モデル
- 国際ホテル (フロントサービス、料飲、ホテル総合職)モデル

多彩な学びを通して人間力、国際力、社会力をもった学生の幸せな人生をサポートします

令和6年度(2024年度) 日本国際学園大学  
オープンキャンパス日程を公開しています

公式HPにて随時公開中! ▶▶▶



発行：日本国際学園大学 21世紀型教育研究所  
発行日：2024年7月  
住所：〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3丁目1番地  
電話：029-858-4811(代表)



# JIU21C教育Forum

Vol.9



## 巻頭特集

日本国際学園大学  
仙台キャンパス紹介

海外研修プログラム実施報告

2024年  
新入生ハワイ研修実施報告



## 英語教育特別講演会紹介

日本国際学園大学  
教授 卯城 祐  
司 (USHIRO Yuji)

日本国際学園大学  
授業研究会報告







## 日本国際学園大学 仙台キャンパス紹介

多彩な学びを通して仙台で人間力、国際力、社会力を身につけ、実社会で活躍するための専門性を高めます

### 教室・施設

仙台キャンパスは、仙台駅から徒歩約10分のところにある都市型キャンパスです。仙台市営地下鉄南北線「仙台駅」より1駅2分の「五橋駅」からすぐにある立地も魅力的です。

本館には、改装したばかりのきれいな教室や図書スペース、コミュニケーションラウンジがあり、自習をしたり友人と歓談したりと幅広い用途で利用できます。

2号館にはリゾートホテルをイメージしたホテルフロントカウンターや航空機内を再現した機内サービス実習室、ホテルのレストラン・バーを再現したカウンター実習室等があり、限りなく本物に近い環境で、航空業界・ホテル業界における実践的なホスピタリティスキルを習得できます。



グランドスタッフカウンター

実物大の本格的なチェックインカウンター。ロールプレイを通して、グランドスタッフサービスの基本や接客スキルを身につけます。

### 教育内容

仙台キャンパスでは、「国際教養モデル」「英語コミュニケーションモデル」「現代ビジネスモデル」「国際エアラインモデル」「国際ホテルモデル」の5つのモデルを履修することが可能です。

「国際教養モデル」では、卒業までに約30科目の英語開講科目を受講でき、専門科目を英語で学べるハイレベルな語学力を養います。また、全員が留学を経験することで、英語でディスカッションできるスキルを身につけます。

「英語コミュニケーションモデル」では、英検・TOEICのハイスコア取得を目標とし、聴く・話す・読む・書く、の英語4技能を身につけます。多文化理解についても学ぶことができ、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目指します。

「現代ビジネスモデル」では、実社会のビジネス現場で活躍できるビジネスリーダーの育成を目標としています。実務家教員による実践的カリキュラムで、国際ビジネスから地域デザインまで最新の経営スキルを学びます。

「国際エアラインモデル」では、語学スキルは勿論、航空業界に必要なマナーなどを含め、接客スキルを身につけます。姉妹校の東北外語観光専門学校では多くの就職実績があり、そのノウハウを基に、業界研究から自己分析、エントリーシートの添削や面接対策をしっかりとサポートし、航空業界への就職を目指します。

「国際ホテルモデル」では、国際エアラインモデル同様、語学スキル習得だけでなく資格対策授業も受講することが可能です。リゾートホテル実務経験やインバウンド誘致実績のある教員が、接客スキルを丁寧に指導します。姉妹校のキャス

### 仙台キャンパス実習施設



エアライン実習室

航空機のビジネスクラスを実習室内に再現。機内サービスの練習やお客さまへの機内アナウンスの練習に使用します。



レストラン・バー実習室

レストランを再現した高級感あふれる実習室です。限りなく本物に近い環境でテーブルマナーやバーサービスのスキルを習得します。

ウェルホテル&ブライダル専門学校では、大手ホテルの内定者を多数輩出しています。

幅広い教養を身につけながら学問を学ぶ場所である大学と、専門実習を行うことで就職率の高い専門学校、両者の利点を融合した教育を展開してまいります。



コミュニケーションラウンジ



エア機内サービス実習室

機内サービスの実践的な技能を習得するとともに、エアライン業界で必要な知識を身につけます。



ホテルフロントカウンター

リゾートホテルをイメージしたカウンターです。宿泊ゲストのチェックイン、チェックアウト、宿泊予約など、様々なフロント業務の実習を行うことができます。

### 展望

仙台キャンパスでは、就職実績に定評のある姉妹校・東北外語観光専門学校の指導ノウハウを継承しながら、国際・語学教育を中心に世界で活躍する人材を育てるべく、学術教育と実学教育を一体的に提供してまいります。また、実習を多く取り入れたカリキュラムのもと、社会で即戦力として活躍できる人材の育成に寄与してまいります。



図書スペース





## 海外研修プログラム実施報告

## 2024年 新入生ハワイ研修実施報告

国際連携室長 鎌田 彰(引率者)



2024年新入生ハワイ研修参加学生とハワイパシフィック大学学生

## 日本国際学園大学 新入生ハワイ研修実施概要

2024年(令和6年)4月1日「日本国際学園大学」が開学と共に、「日本国際学園大学 新入生ハワイ研修」が実施されることは大変意義深いことでした。

橋本学長は、「国際的視野を培うグローバルマインドと日本文化及び日本社会に貢献するローカルマインドを併せ持った教育」と「実学に基づいた教育」が、これからの国際社会に不可欠であると述べられ、この新入生ハワイ研修(4月21日～25日)は、上記の2つの教育理念を具現化した教育実践であり、まさに日本国際学園大学の教育のダイナミズムであると確信しています。また、これは前身の筑波学院大学として長年培った「知・徳・技」の教育理念にも当てはまり、これから日本国際学園大学が進化する中で、「新入生ハワイ研修」が大切な役割を果たすことを望んでいます。

研修地に関して、右記の「初めての海外旅行で行きたい国・地域ランキング～アンケート結果(阪急交通社)」のデータを参考にして、選定をしました。

その他の理由に関しては、ハワイは穏やかな気候、多彩な文化、治安の良さ、教育施設の充実があげられます。さらに本学は、2023年10月に Hawaii Pacific University(HPU: ハワイパシフィック大学)と提携いたしました。この研修だけでなく、今後一層、本学の国際教育に貢献してくれることが期待されます。ハワイパシフィック大学学長を始め、ハワイパシフィック大学研修を企画運営して

いただいた International Group Programs の担当者や TA 及び SA のご協力で、素晴らしい研修ができたことに感謝を申し上げます。

| 順位     | 初めての海外旅行で行きたい国・地域             | 割合    |
|--------|-------------------------------|-------|
| 1位     | ハワイ                           | 18.1% |
| 2位     | 台湾                            | 15.8% |
| 3位     | 韓国                            | 14.6% |
| 4位     | イタリア                          | 14.0% |
| 5位     | オーストラリア                       | 10.5% |
| 6位     | アメリカ                          | 9.9%  |
| 7位     | 北欧(デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド) | 9.4%  |
| 8位     | フランス                          | 7.6%  |
| 9位(同率) | ドイツ                           | 6.4%  |
| 9位(同率) | イギリス                          | 6.4%  |

初めての海外旅行で行きたい国・地域ランキング～アンケート結果(阪急交通社)



## ウォーキングツアー カメハメハ王像前にて大学の国際教育的アピールポイント

実施期間及び実施時期については、入学直後の4月に新入生対象にこのような研修企画を行っている大学は珍しく、大学としての国際教育的アピールポイントが高いと考えました。また、参加した学生によるアンケートによると、研修時期と研修期間も「4月実施」と「3泊5日」が良いとの回答が多くみられました。

研修内容について、第1日目にハワイ到着後、世界最大のショッピングセンターである「アラモアナショッピングセンター」で、昼食・買い物を楽しみました。その後、ホテルがあるワイキキ地区に移動し、ビーチ、マーケット、ショップ等を探索しながらアメリカ文化を生で体験しました。

第2日目はSDGs活動の一環である「ビーチクリーン活動」に参加し、ビーチのゴミを収集しました。プラスチックごみが海洋投棄された後、最後にマイクロプラスチックとなりハワイにたどり着き、それが海洋動物や魚に悪影響を与える環境問題を現地地で学びました。また、ハワイ・オアフ島の象徴である「ダイヤモンドヘッド」に登り、山頂からの自然の美しさや景色の壮大さに感動を味わいました。



HPU 学生との交流



## アイスブレイク「自己紹介&amp;英語でインタビュー」

第3日目は、Hawaii Pacific University(HPU: ハワイパシフィック大学)での研修に参加しました。ハワイ文化の体験学習、カフェテリアでの昼食、ダウンタウンにあるいくつかのキャンパスを巡るキャンパスツアー、カメハメハ大王像、イオラニ宮殿などのハワイの「オールドタウン」を見学、ハワイパシフィック大学の学生に英語で「日本文化紹介」を行い、この研修の大きな目的である国際交流を体験することができました。

最後に研修の思い出として、「サンセットクルーズ」に参加し、豪華ディナーとハワイアンショーを満喫してこの研修を終えました。

今回参加した学生は、ほとんどが初めての海外渡航でしたが、短期研修にもかかわらず大きく成長して大学生活をスタートできたことは、大変意義深いものであると確信しています。

最後にこのハワイ研修は本学を志望する受験生にとって非常に有意義であると考えます。それは大学入学と同時に海外という新しい環境や文化に触れることで、国際的視野が広がります。異文化体験は自己成長に繋がり、学習においても柔軟性や創造性を育むことができます。またハワイの自然や歴史、文化に触れることで日本で味わうことができない貴重な体験を学ぶ機会にもなります。さらに現地の人々と交流することで、英語コミュニケーション能力や異文化理解力が高まります。これらの経験は学校で学ぶ教育だけでなく、将来のキャリアや人生においても大きなプラスになることでしょう。日本国際学園大学は、このような教育実践を通じて日本のみならず世界に貢献する人材教育を行いたいと考えております。是非、日本国際学園大学の国際教育に今後ともご期待いただきますようお願いいたします。



## 日本国際学園大学 英語教育特別講演会紹介

英語教育学  
教授 卯城 祐司 (USHIRO Yuji)

「目的や場面、状況に対応する英語リーディングの指導と工夫」



5月17日(金)、6月14日(金)とつくば会場で、5月10日(金)、6月21日(金)と仙台会場で、高等学校の先生方を対象とした、本学教授 卯城 祐司先生による「英語教育特別講演会」が開催されました。以下は、その6月14日(金)の概要です。



## 日本語訳を超えた理解

本講演に先立ち、5月には、つくば・仙台両会場で、「実際のコミュニケーションを想定したテストで問われているリーディング力とは」と題する講演がなされた。現在、共通テストやTOEIC などでは、様々な場面設定の中で英文が出題され、状況に応じた思考力や判断力が問われている。限られた時間の中で、これらの膨大な量の英文に対応することは困難に感じる受験生も多い。しかし、用いられている語彙や文法の大部分は、中1から高1で学ぶ基本的なものであるという。実際のコミュニケーションを想定した目的や場面、状況に対応できるリーディング力を育てるためには、どうしたら良いか、フロアの参加者に問いかけながら講演が行われた。

6月の講演では、さらに、実践的なコミュニケーション場面での「使える英語力」について焦点を当てて講演がなされた。4技能5領域の1つである英語リーディングも、様々な場面設定の中で、状況に応じた思考力や判断力が必要となっている。そのためには、「一語でも多く頭に入れる」のではなく、「情報を整理する」読み方が求められると力説された。また、インフォメーション・トランスファー (Information Transfer) の概念をもとに、具体的に、どのように学び、また指導すれば良いか、ワークショップ形式で進んだ。

まずは、現在の英語教育の課題として、①小中高の学校種間の接続が十分でないために学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができていないこと。②「話すこと」「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないこと。③「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと。④読んだことについて意見を述べ合うなど複数の領域を結び付けた言語活動が適切に行われていないことを指摘され、各学校段階の学びを接続させ、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にすることが重要であると力説された。

そして、先生が教育課題研修指導者海外派遣の「アクティブ・ラーニング (Active Learning)」シニアアドバイザーとし

て視察された米国の様子なども紹介され、バックワードデザイン (backward design) や、何が出来るようになるか (CAN-DO) 最後の姿を具体的に決めることの重要性。そして、その姿を評価・確認するための方法を決めること (パフォーマンステスト)。さらに、どのように学ぶか (実際の場面→複数領域・統合的、英語を用いて英語を教える) などについて解説された。

続く、ワークショップ形式の演習では、英文の情報をそのままではなく、少し形を変えて理解するインフォメーション・トランスファーの重要性について、comparison-contrast, cause-effect, classification, argument などをもとめるグラフィック・オーガナイザー (graphic organizer) などの具体例を示され、参加者がペアとなって課題に取り組み、その討議内容を描いたものを、卯城先生がその場でスクリーンに取り込み、スクリーンに投影され、各ペアが説明、他の参加者が意見を述べ、最後に先生が解説とアドバイスを送られた。

卯城先生は、これまで47全ての都道府県で英語教育に関わる講演や教員研修をされてきた。小中高の英語の教科書や大学のテキストの代表執筆者も務められ、また、全国的な英語教室の監修や幼児教育の教材作成にも関わられ、講演が理論的でもあり、また明日の授業に直結する実践的なものであった。

5月講演では、離島の高校で教えられた際、島の人々に教われたエピソードを、この6月講演では、退学した教え子からの30年ぶりのメールを紹介されたりと、心温まるお話で締めくくられた。



## 卯城先生の代表的な著作の一部

## ■ プロフィール

卯城 祐司(うしろ ゆうじ)

博士 (言語学)。道立高校3校、北海道教育大学釧路校助教授、筑波大学教授を経て、現在、本学教授、筑波大学名誉教授。全国英語教育学会会長、小学校英語教育学会会長、関東甲信越英語教育学会会長等を歴任。日本国際学園大学教授。

## 授業研究会報告

本学では学内でアクティブラーニングなど新たな教育の手法を共有するという観点から、全専任教員を対象とした授業研究会を毎月1回実施しています。研究会では発表者が報告する授業実践の工夫や課題について、教員たちが活発な議論を交わしています。今回は2023年度10月～2024年2月開催の研究会について報告します。



## 安達 万里江 助教

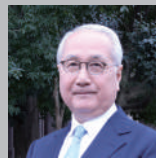
【略歴】京都外国語大学大学院 外国語学研究科博士前期課程 修了  
【学位】修士(言語文化学)  
【専門分野】日本語教育

## ■ TGUからJIUへ:変化と不変を考える(2023年10月26日開催)

2023年度より本学で教育職員と事務職員を兼務する中で、前任者の資料等を確認しながら授業運営をし、授業研究会では、安達・亀田(2024)の一部を報告した。

(1) 変えないところ: アカデミックレベルの日本語能力を伸ばしていく必要があるが、留学生活や学業に困難を抱える留学生が一定数いるため、個別指導や面談を重視していく。

(2) 変えるところ: これまで以上に本学の日本語教育担当者は学内外において組織的な連携を検討しながら、授業運営を進めていく必要がある。



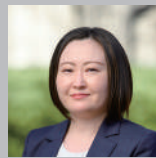
## 小関 広洋 教授

【略歴】University of Hull 大学院 修了、PIMCO アジア担当調査部長、経営コンサルタント  
【学位】経営学修士(MBA)  
【専門分野】経営学、ファイナンス、マーケティング

## ■ 年年歳歳花相似歳歳年年人不同(2023年12月21日開催)

私は、日系および外資系の金融機関や経営コンサルタント業務を経験した実務家教員として、本学ではファイナンス論・会計の基礎・国際マーケティング・経済政策・経営史・経営戦略など、ビジネス関連の講義科目を担当しています。

講義には、中国をはじめ多くの留学生が参加していることから、英国と中国に留学した自らの体験を活かし、ビジネス用語とその意味を日本語・英語・中国語で正確に理解できるよう、毎回の授業で工夫しています。また、海外生活で実感した「異文化コミュニケーション」についても、教科書的な解説ではなく自らの経験を話すことで、皆が自分自身の身近なテーマとしてとらえてもらえるよう努めています。



## 常木 麻衣 助教

【略歴】国士舘大学大学院 グローバルアジア研究科 グローバルアジア研究専攻博士課程 修了  
【学位】博士(学術)  
【専門分野】考古学、文化遺産学

## ■ アクティブラーニングの実践を考える(2024年1月25日開催)

今回の授業研究会では、アクティブラーニングの実践方法について検討した。50名以上が参加する大教室でのアクティブラーニングの実践方法について、他の先生方に意見を伺ったところ、概ね最初に課題を出し、ディスカッションの時間を設け、発表を行うという手順で、ディスカッションの時間内に教室を巡回するとのことであった。その中でも特に大切なのが、「最初の10分間で心を掴む」ということであった。ここでいただいた意見は、人数問わずどのような授業でも応用が効くものであるため、今後の授業内で実践していきたい。



## 高橋 卓久真 助教

【略歴】京都市立大学 大学院美術研究科 修了  
【学位】修士(美術)  
【専門分野】デザイン学、情報デザイン

## ■ 専門領域の立ち位置と教育の実装(2024年2月29日開催)

国際政治経済学者のフランシス・フクヤマが著書 Identity(2019)の中で、2010年代に政治論点が「経済問題」から「尊厳を巡る問題」に様変わりしたと指摘した。この「アイデンティティ政治」のダイナミズムが今後日本にもたらすものは、多様性とは真逆の分断である。特にこれまでもあったであろう価値観に対する従来以上の分断が起これと考えられる。

時代が放つ分断は、表現領域に対して一際大きく影を落とすであろう。しかし、我々は「with 資本主義」を受け入れ、変化を遂げる社会に適応し生存していく必要がある。それらの環境下で創造性を駆使し、社会に寄与する人間となるには、アートやデザインを「生の技法」として自己テクノロジーとして身体化し、体得した技術を通して自己を定義し、表現できる人間になるまた、未来をサーフするための「不遇を楽しむ術」を修得する。今後も上記の能力が学生に中長期的に醸成されていくような授業内容の充実を図ってきたい。